

中カ研だより

第2号 令和3年10月 発行 中学校カウンセリング研究会



◎養老孟司の考える学びとは

夏といえば虫取りという程、幼いころは虫取りが好きでした。バッタやコオロギ、セミをとることはできましたが、カマキリやカブトムシなど、なかなか捕まえることができない虫もありました。中でもカブトムシは憧れの的で、いつかはと思うものの、なかなかつかまえたり、飼育できずにいました。

我が子たちも虫好きで、網を持って走り回っています。近くの公園に探しに行ったものの、見つけることができず、やはり、カブトムシにはなかなか出会えませんでした。

そんな話を生徒にしていると、ある日、

「先生、捕まえてきたよ！あげるよ！！」

と持ってきてくれました。家の前にいたようで、学校周辺ではよく見かけるということでした。

私は大喜びしました。カブトムシを家に連れ帰りました。我が子たちも大喜びです。そんなわけで、この夏、カブトムシを飼育することができました。

虫といえば、解剖学者の養老孟司さんは虫好きで有名な方です。最近、youtubeで専門チャンネルを開設されています。その中で、教育について語られているものがありました。以下の文章は、『学びの県づくりフォーラム Vol.2 養老孟司さんと考える これからの時代に必要な「学び」とは？』で話されたいたものを抜粋したものです。

学んでいくということは、どういうことなのか。脳のなかの話になりますが、コンピュータのようなものだと思ってもらえればわかりやすい。脳に入ってくるのは、入力ですね。脳の働きには「入力」「計算」「出力」があり、五感を働かせて脳に情報を送り込むことによって脳が活性化します。五感とは見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触る。感覚というのは、外の世界とがっちり結びついて、外から入ってきたものをガチャガチャと計算して、出力する。これをプログラムとかアルゴリズムと呼んでいるんですけど、皆さんいつの間にかそれを感覚で覚えているんですよ。

皆さんが中学のときに習った比例。たとえば、赤ちゃんがハイハイして動く、またはよちよち歩きをする。動くたび、歩くたびに見えてくるものが近づいてきたり、遠ざかったりして、大きさも違ってくるとは思いませんか。だけど、もともとの物体は変わらない。これを比例といいます。皆さん比例って、学校で教わるものだと思っていますけど、そうじゃないですよ。この赤ちゃんのように、日常生活のなかでひとりでの脳みそが比例という概念を持つ。その感覚を何度も繰り返すから、脳のなかにはあるルールができてきます。それが、学習なんですよ。自分でやって、その結果を受け入れて、そうしてまたやってみる。これを繰り返す。学習の根本はここにあります。

この「入力」と「出力」ですが、最近は両方とも疎かになっている気がしませんか？たとえば、人が働くオフィスや子どもたちが過ごす学校。なんと驚くべきことに、一日中明るさが同じなんです。床も平らで硬さが同じ、風も吹きません。人工的なものの中で、「入力」が全然変わらないということは「出力」が変化しないということですから、学習になりません。たぶん今は子どもには「触っちゃいけない」と教えています。東京へ行ったらよくわかりますが、建物はコンクリート造りで、日陰だと冷たいし、陽が当たると火傷しそうなくらいに熱い。僕から見ると、建物自体が触ってくれるなと言っているように思えます。環境の変化を与えなければ、身体はさぼる。人間は上手に省略できる生き物ですから、必要でないと思えばさぼって、すぐに省略しようとしします。子どもたちの環境で、私はこのことが一番心配なんです。

『学びの県づくりフォーラム Vol.2 養老孟司さんと考える これからの時代に必要な「学び」とは？』より抜粋

◎「知っていること」と「やってみること」

私自身、カブトムシを実際に飼育し、分かったことがたくさんありました。以下、いくつか紹介いたします。

本などにはカブトムシは夜から朝がたにかけて活動するとありますが、我が家のカブトムシは夜の12時から2時ぐらいによく活動しています。ですから捕まえに行くには、12時から2時ぐらいに出かけるのが良いのだと思います。そんな時間に子供を連れて出かけるのはなかなか、大変です。

一方で生徒は、朝の通学時に見つけたと言っていました。ですから、よくいるところでは、その時間でも捕まえることができるのだと思います。今後もリサーチを続けていけば、いつか自分でも捕まえられる時がやってくると思います。

また、飼育しているとにおいも気になります。カブトムシがよく集まるのはクヌギの木です。

「木からカブトムシのにおいがする」

というぐらいに、その木のにおいを感じます。ですが、飼育していると、そのにおいとは別の悪臭がします。それは、糞や尿の臭いです。

動物ですから糞や尿をします。飼育下では分解される前に、異臭となって鼻につきます。飼育ケースを清潔にしなければ、カブトムシがダニなどにやられることがありますから、小まめな清掃は大切です。我が子たちと、

「くさいなあ」

と言いながら、でもキャッキヤと笑いながら土を換えました。

飼育ケースを清掃するためには、一旦、カブトムシを移動させないといけません。ですが、木にしがみ付いて離れません。無理やり引き離すと、関節がもぎ取れそうです。力は思っていたより強力で、びっくりしました。

実際に飼育してみて分かることは、本に書かれた知識とは違い、嗅覚や触覚も使いながら体感したということです。それによって、愛着を持って、さらに生き物に接せられたように思います。

◎学校教育の意義はどこに？

先にあげたような体験は、当たり前にはできなくなってきているのかもしれませんが。

五感を用いて学習すること、人と関わり合って学ぶこと。こういったことを更に、学校現場で取り入れることで、子供たちが得られる学びがあり、意義があるということは周知の事実です。

コロナ渦により、学校現場ではグループ活動や体験的な活動や実習を行うことが難しくなっています。しかし、私たちはそれらをなくしてはならないと、どうにかしてできる方法を模索しています。

こんなときだからこそ、学校だからできることがあると思います。そこでしか得られない意義があれば、自然と学校に来ることが楽しくなるのではないのでしょうか。



上記の文章から、いろいろな気づきがあれば幸いです。

昨年度、中学校カウンセリング研究会では、以下の研究テーマとサブテーマで、活動・研究をしてきました。

研究テーマ「中学校教育活動における教育相談(カウンセリング)の効果的な活かし方」

サブテーマ「～視点を変える。子どもの行動が示す深層に迫るために～」

〔研究テーマ・サブテーマ設定理由〕

本研究会では、「中学校教育活動における教育相談(カウンセリング)の効果的な活かし方」を研究テーマの主題に、長年研究してきている。その主題を大切にしながら、今年度も昨年度から引き続き、サブテーマを「～視点を変える。子どもの行動が示す深層に迫るために～」と設定した。本研究会では、教育相談(カウンセリング)とは、教師の基本的な在り方(人とのかかわり方)を示すものとして捉えている。特に今年度は、子どもとのかかわり方の研究を「視点を変える」ことで試みていきたい。多面的な視点を研究していくなかで、また、新しい視点を探していくなかで、「子どもの行動が示す深層に迫れる」ことを確かめていきたい。「子どもの行動の深層に迫る」ことで、子どもへの理解が深まり、子どもへのかかわり、支援や指導の質が向上することを狙いとしたい。そのような教育相談(カウンセリング)の視点が、現在、中学校の現場では必要ではないだろうか。子どもの行動には、必ず意味がある。しかし、その意味に迫れるかどうか、その深さを推し量れるかどうかは、本当に難しい課題である。反社会的行動に現れるもの、非社会的な行動に現れるもの、なにげない言動に現れるもの。それぞれの子どもに、それぞれの思いがあり、それぞれの状況がある。それらに迫るための視点、少しでも深層を感じることが出来る視点を研究していきたい。そして、それらを追及していく姿勢が、子どもの行動の変容に繋がることを確かめられるような研究へと、発展させていきたい。

コロナ禍において、私たちの生活する環境は大きく変わりました。生徒・保護者・教職員のそれぞれが、不慣れな生活を余儀なくされています。本来は“からだの距離”をとるためのソーシャルディスタンスも、“心の距離”まで離れてしまっている現状があります。昨今の社会状況を鑑みれば、「心に寄り添うこと」の重要性がさらに高まっています。人と人との関わりが大切にされなければ、パーソナリティと社会性の発達が危機的な状況になります。それ以外のさまざまな場面でも、多くの危機に直面することになります。これからますます、カウンセリングの視点での生徒理解、生徒支援、生徒指導等が必要です。一緒に中学校カウンセリング研究会で、活動しませんか？ご興味を持たれた際には下記までご連絡ください。

※ 中 力 研 の ホ ー ム ペ ー ジ

(<https://portal.kyotocity.ed.jp/taxonomy/term/79>)も随時、公開しています。合わせてご覧いただければと思います。過去の中力研だよりの閲覧については、学校のパソコンから以下の手順で入っていただければ見ることができます。

[総合教材ポータルサイト→教育研究関連→教育研究団体HP一覧
→中学校→教育相談・カウンセリング]

※ご意見・ご感想、ご質問、子どもの関わりなどでお困りの点などがありましたら、ご連絡ください。中学校カウンセリング研究会の方でその話題を取り上げて、研究を進めていきたいと思っています。必要に応じて、電子メールでもご返信ください。

宅間 光晴[西陵中学校教諭] まで